

別記1の3 認証基準（米）

	管理点	番号	レベル	適合基準	
1 管理全般					
管理全般	農業生産工程管理（GAP）に取り組んでいる	1.1	必須	継続的な改善活動（栽培計画を策定し、点検項目を確認して農作業を行い、取組みを記録・保管し、自己点検及び団体による点検を受けて次作に向けた改善点を見出す）によるGAPを実践している。	
		1.2	重要	集荷団体や部会等で開催する農産物の安全性確保やGAPに関する研修会等に参加している。	
	登録種苗の適正な使用を行っている	2.1	必須	権利が保護されている種苗（種子、苗）育成者の許可なく増殖したり、生産者等に種苗として販売を行わない。【法令上の義務】	
		2.2	重要	農業者自らが開発した技術・ノウハウ（知的財産）を保護・活用している。	
	農産物の生産に関する伝票、領収書等を保管している	3.1	必須	種子、苗、農薬、肥料、堆肥の購入伝票を取引先等に対応できるように一定期間保管している。	
		3.2	必須	農産物の出荷記録をつけるとともに、3年間は出荷伝票を保管している。	
	栽培情報・生産資材の使用履歴を記帳している	4.1	重要	ほ場情報（マップ、ほ場一覧表）を記録、保管している。	
		4.2	必須	栽培履歴、農薬・肥料・堆肥の使用履歴を記帳している。	
	帳簿類を整備している	5.1	必須	農薬・肥料の在庫台帳など帳簿類を整備し、取引先等に対応できるように一定期間保管している。	
		5.2	必須	米穀等の取引記録の作成・保存・産地情報の伝達を行っている。	
	2 食品安全				
	土・水	ほ場の安全性を確認している	6.1	必須	過去のカドミウムの分析等の情報をふまえ、必要な場合に対策を実施している。
6.2			必須	ほ場の周辺環境（水、土壌）からの汚染のおそれがないことを確認している。	
農薬	農薬は適切に使用している	7.1	必須	無登録農薬は使用せず、農水省登録のある農薬を使用している。	
		7.2	必須	農薬ラベルの記載事項を事前に確認してから散布している。特に、使用基準（適用作物、使用回数、使用時期、希釈倍数または使用量）は厳守している。	
		7.3	重要	防除器具（ホース含む）が洗浄され、前回散布の農薬が残っていない。	
	農薬の保管管理を適切に行っている	8.1	必須	農薬は専用の場所で保管している。また、開封した農薬の保管は、こぼれたり、他の農薬容器に付着しないように管理している。	
		8.2	重要	農薬の保管場所や調合場所と農産物を取り扱う場所とが明確に区分されている。	

	管理点	番号	レベル	適合基準
農薬	残留農薬のおそれがない農産物を生産・出荷している	9.1	重要	前作で土壤に散布した農薬を把握しており、当該作付け作物に対する残留リスクがないことを確認している。
		9.2	必須	収穫する作物について、園地外からのドリフトに注意している。
		9.3	重要	所属する集荷団体は残留農薬の分析を実施している。
収穫後の衛生管理	収穫物を衛生的に取り扱っている	10.1	必須	収穫後の保管施設において、ねずみ等が侵入することがないように措置を講じている。また、機械油等の汚染物質や、金属片等の異物が付着・混入することがないように措置を講じている。
		10.2	必須	適切な施設で保管を行っている。 1 倉庫内における適切な温度・湿度管理 2 掃除を適宜・適時実施しており清潔である。
	異品種混入防止対策を講じている	11.1	必須	収穫時に異品種が混入しないよう必要な措置を講じている。
		11.2	必須	農作業開始時からの各工程において異品種や他の穀物等が混入することがないように必要な措置を講じている。
	作業者からの汚染防止の措置を講じている	12	必須	全ての作業従事者は以下の際に清潔で衛生的な場所で手洗いを確実にしている。 1 原料及び製品取扱い前 2 食事後、トイレ使用后、喫煙後
3 環境保全				
周辺環境への配慮	農薬による水質汚染を防いでいる	13	必須	農薬の使用残がでないように必要な量だけを秤量・調製するとともに、周辺の水路や河川に流入しないよう措置を講じている。
	農薬のドリフト防止対策を行っている	14.1	必須	近隣に農薬散布の悪影響がないよう配慮した防除を行っている。
		14.2	重要	ドリフト防止の基本対策（山形県病害虫防除基準やJ A等の指導資料等）を講じている。
	周辺環境に配慮した農業生産活動を実践している	15.1	必須	水田に除草剤を散布する場合、止水期間7日以上を厳守して周辺水系を汚染することがないように努めている。
		15.2	重要	代かき後すぐの排水を行わないなど濁水流出防止に努めている。
		15.3	重要	農薬を散布する際は、周辺環境に配慮するよう適切な薬剤選択と散布量で防除を実施している。
		15.4	重要	未熟堆肥や家畜糞尿等の不適切な施用や保管による周辺環境の汚染がないようにしている。
		15.5	必須	農薬袋、マルチ等の廃プラスチックは、J A等で行う回収を通じて適正に廃棄している。
		15.6	必須	不適切な屋外燃焼行為により周辺へ悪影響を及ぼさないようにしている。
		15.7	重要	作物残さについては、堆肥化などのリサイクルするようにしている。
15.8		重要	降雨や強風によって土壤が流亡する恐れがある場合は、対策を実施している。	

	管理点	番号	レベル	適合基準
環境保全型農業の実践	化学農薬に過度に依存しない防除法を実践している	16.1	必須	県やJA等で作成する防除暦や発生予察情報等を活用し、適切な防除計画を立てている。
		16.2	重要	病害虫や雑草が発生しにくい栽培環境づくりに努めている。また、化学合成農薬の代替として、物理的防除、生物的防除などの技術を組み合わせたIPMの導入に努めている。
	環境に配慮した農業を実践している	17.1	必須	効率的に肥料・堆肥等を施用するための施肥設計を行っている（または、JA等の指導を受けている）。
		17.2	重要	堆肥等の有機物による土づくりを行っている。また、堆肥は、適切に堆肥化されたものを使用している。
4 労働安全				
労働安全	危険作業の把握に努めている	18	必須	ほ場、作業施設等で機械作業を行う場所について、想定される危険箇所について、予め把握し、対策をとっている。
	適切な服装及び保護具を着用している	19.1	重要	衣類や手足などが機械に巻き込まれないよう、作業に適した服装や靴を着用している。
		19.2	必須	農薬散布等の作業において、適切な保護衣や保護具（防護マスク、メガネ、長靴、手袋）を着用している。
	事故防止のための作業環境整備及び機械作業時の安全対策を講じている	20.1	必須	機械類の定期点検・整備を実施するとともに、使用前の試運転や使用後の清掃・整備等を実施している。また、機械類は取扱説明書に従って適正使用し、適切に保管している。
		20.2	必須	燃料は、火気がなく、通常部外者が立ち入らず、漏れた場合でも河川に流入しない場所に保管している。
		20.3	重要	乾燥調製施設の場合、施設の管理者と作業者との責任分担を明確にし、事故等の発生を防止する。
		20.4	必須	資格を必要とする作業等には、未資格者は従事させない。危険を伴う作業には、未熟な作業者等は従事させないようにする。
	事故時・事故後の備えを整えている	21.1	重要	農作業中の事故の際に応急措置ができるよう、救急箱を備え付けている。また、緊急時の連絡体制を整え、病院等の連絡先がわかるよう掲示している。
21.2		重要	万が一の事故に備え、労災保険や傷害共済などに加入している。	
5 個別項目				
個別項目	特定の米穀の適正な保管・処理を行っている	22.1	必須	用途限定米穀、食用不適米については、区分管理や票せんによる用途の掲示を行う等、適切に保管している。
		22.2	必須	用途限定米穀、食用不適米穀については、転用防止対策の実施や廃棄又は食用に供しない物資の加工・製造用途に使用する等、適切に販売・処分している。
	エネルギーの節減対策を実施している	23	重要	施設・機械等の使用において、不必要・非効率なエネルギー消費の節減に努めている。
	鳥獣被害対策を実施している	24	重要	鳥獣を引き寄せない取組み等、有害鳥獣による農業被害防止対策を実施している。